

## 学校のちょっとしたいい話 ⑳



立川市立孫子第二小学校  
校長 山智子  
千葉県我孫子市  
元校長 山智子

「聴こえる?…心の声が…」

私は、中学校の教員として採用された。ある年の新入生のS君は、小学校の高学年から人前で話すことが苦手だった。今でいう場面緘黙(かんもく)の症状である。中学校ではどのように対応するか、入学前に、本人と保護者、管理職も交えて面談をした。入学後、級友がこんなことを話してくれた。「彼は家では普通に家族と会話しているんだよ。でも、小学校の音楽の時間に素敵なボーイソプラノで歌っていたS君のことを笑った子がいて、それから、学校では一切、彼の声を聴くことができなかったんだよ。」

「聞く(物音や人の話を耳でとらえる)」については、「聴く(身を入れて聞く)・訊く(尋ねる)・効く(効果がある)・利く(役立つ)」という言葉もあり、中でも、「聴く」に焦点をあてて、生徒には「心の声を聴く」ということが大切であると話していた。

ある時、国語の音読で、生徒から「全員で句点(の区切り)読みをしたい」と提案があった。事前の面談ではこんな時のことも想定して、S君ならどうしたいか尋ねていた。彼は「みんなと一緒に読みたいが、声が出るかはわからない」と告げた。私は、風邪をひいて声が枯れ、授業を進められない辛かった体験を彼に話した。その時は、板書を中心に授業を進めたことを伝えた。彼は、「声は出ないかもしれないけどみんながよければ一緒にしてみたい」と筆談で示してくれ、保護者の了解も得た。ただし、彼の気が進まない時には、無理をしないことを約束して…。

「みんなで句点読み」を提案した生徒の他に、「彼の順番の時に彼と一緒にみんなも心の中であわせて読もう」との発言もあった。一旦授業を区切り、「彼の気持ちに聴いてから」ということになった。

た。彼に尋ねたところ「一度試してみたい」という。保護者にその日の授業の様子と彼の気持ちを伝えて、承諾をもらった。

あくる日の授業で、彼が「一度みんなで句点読みをやってみよう」と言ってくれたことと、やってみて彼の気が進まない時は、無理に進めないことを生徒に伝え、全員で順番に「句点読み」をした。勿論、彼の読む箇所は、クラスのみならずみんなで一緒に読む方法をとった。

その日の終礼後、彼に感想を聞いてみた。また、「これからもやってみよう」との返事であった。保護者も無理をしないということと、再度了承を得た。この国語の「句点読み」の授業スタイルは、英語のペア学習など他教科にも広がり、彼と保護者と相談しながら、一年半ほど試行錯誤を重ねた。

そして、その日は突然やってきた。中学二年生の冬、教室で彼の声を初めて聴くことができた。彼の声はとても落ち着いていた。一瞬みんな少し驚いた表情を浮かべてはいたが、すらすらと読み終えた彼の満足げな表情と共に、彼も生徒たちも普段通りの態度で授業を終えた。その後の学校生活のさまざまな場面で彼が級友たちと話す姿を多く見ることができた。彼らの成長が私にとってこの上ない喜びと励みの時間となった。

## ◆ 編集後記 ◆

編集長

大久保

俊輝



あなたは本気で色眼鏡を外すことが出来ますか。教師や親はこの色眼鏡を付けてみる傾向が強いのです。あの三・一の大災害の時に茶髪の所謂「ドロップアウトした若者たち」が必死に人助けに奔走している姿が見られました。すべての子どもたちが教室という枠にはなかなかはまりません。絵を描くのに画用紙の中に納めなければいけないという考えから、紙を足して描いていく発想が許容され始めています。皆さんは、通知表を担任から渡されて嬉しさでドキドキする事はあったでしょうか。評価は何のためにあるのですか。どんな子もやる気にさせるのが評価ではないでしょうか。やる気を引き出せない評価には意味がないのです。生きていく限りその人にしかできない使命が必ずあるはず。あなたにはあなたにしかできない使命がある。大切なのは誰に評価をされたいかです。私は人生の師に「よく頑張ったな!」と褒めてもらえればそれで満足です。

購読希望の方は、左記フォームをご利用ください。(お問い合わせ先)  
電話 04-7173-3219

E-mail kyoiku@moralogy.jp

